

特別講演

基調報告

家族の思い

- ハンセン病家族訴訟 原告番号21番 先生
- 東北学院大学 経済学部 共生社会経済学科 教授 黒坂 愛衣 先生

ハンセン病家族訴訟原告21番さん(1963年生まれ、50代男性)は、1歳のとき、父親がハンセン病を再発して東北新生園に入ることになりました。母親と幼い21番さんは、新生園の近くの集落で暮らし始めます。父親は、園外で土建関係の仕事をしつつ、月に一回ほどは集落の自宅で過ごしていました。

——学校でのいじめや被差別体験、助けてくれた大家さんや担任の先生のこと、父親との関係など、21番さんの具体的な体験を伺います。

リレートーク

黄 光男・原告番号64番・原告番号75番・原告番号169番
原告番号188番の家族・原告番号190番

特別報告

- 家族訴訟で明らかになったこと 弁護士 大槻 倫子
- 療養所に期待される役割 弁護士 内藤 雅義